

# 手術訓練に臨場感

## 水含む疑似生体モデル開発

## 本物感覚で切開・縫合

龍谷大学発ベンチャーのウェトラブ（大津市、岡野仁夫社長、077・543・7818）は、手術時に用いる電気メスや超音波メスによる切削や凝固の手術訓練に使える疑似生体組織モデルを開発した。水分を含んだ臓器を再現しており、医師は臨場感ある訓練が可能になる。内視鏡や腹腔鏡手術の低侵襲手術が拡大する中で医師の技能向上への貢献を狙う。3月から大病院など全国約50の医療機関にサンプル供給を始める。

**龍谷大発VB  
ウェトラブ**



ウェトラブは2012年2月設立。親水性の高い（PVA）製の手術訓練用の疑似生体組織モデルを手がける。

従来の疑似生体組織モデルはシリコンゴムやフェルトは水分がほとんど含まれず、生体との類似性が低いため本格的な手術練習に活用できない。PVA製の臓器と同様の感覚で切開や縫合などの手術練習に使える。同社はこれまでPVA製モデルを作製していたが、従来タイプでは電気メスや超音波メスを使うと、溶けてしまう難点（ウェトラブ提供）

が。実際の臓器に電気メスを当てた場合は、焦げたような感じになるという。ウェトラブは今回、PVAの特性を生かした新

素材に独自技術を盛り込んだ。レーザーメスを使った時も素材は溶けず、切開しながら縫合、止血という生体組織と同じ手術訓練を積める。獣医師の国家試験で近

く、実技試験を導入する動きがあるなど、医師の技を高めるにはトレーニングの質を向上させる必要がある。手術の高度化に伴ってメスの使用状況も複雑化し、高いレベ

ルでの手技が欠かせない。まず3月にサンプル出荷を開始。その上で、受注品として5月から本格販売に乗り出す考えだ。（電子版に動画）